

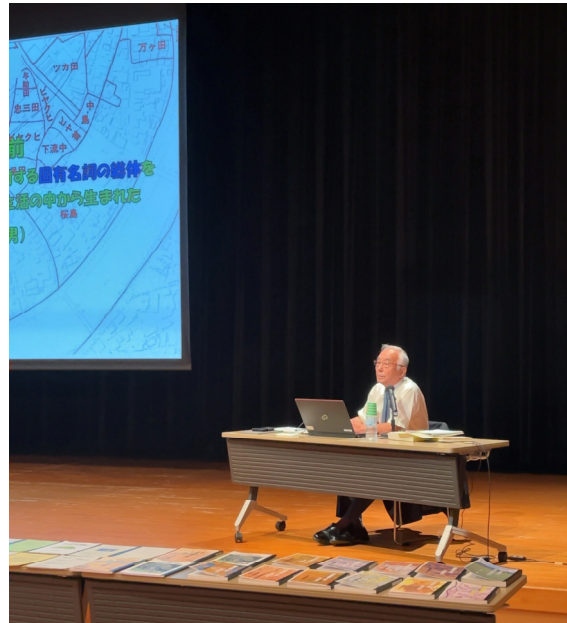
まほらいな市民大学の様子

令和5年7月7日（木）・18日（火）

『 伊那市の地名考 ① ② 』

～伊那市の「古い地名調査」から見えてきたこと～ 』

講 師 伊那市地名調査編集委員 竹松 亨 氏



伊那市では平成24年から7年間かけて、市内84地域で地域住民の協力を得て「古い地名調査」が行われ、それが地区ごとの冊子となってまとめられました。その調査編集の中心となって活動された竹松 亨 氏の話をお聞きしました。

伊那市の小字名は、かつて9990個あったものが8370個に減少している。「田」「久保」がついた小字名が多い。「小字名の漢字を見ると、人々の日常生活の中から言葉を選び、地名によって交わりを深くし、生活を豊かにしてきたと思われる。」「地名はその土地に生死した人々のメッセージである。文化を背負って継承されてきたものである。」「藤原京跡(693～710年)より『科野国 伊奈評』と書かれた木簡が見つかった。科野、伊奈(那)の由来も諸説あっておもしろい。」「平安時代には伊那郡 小村 福智 春近領 露原庄といった地名も出てくる。」など、歴史と今ある地名の話がありました。

また、1698(元禄11)年に伊那で起きた大洪水の記録が古文書に残っていて、現在のハザードマップでの警戒区域と地名とが密接に関係しており、「災害の対策として地名をもう一度見直すことも大切である」といった話もありました。

学生からは、「竹松先生の博識さ、情熱と努力、人柄の良さが出ていてとても楽しい話でした。」「伊那市にもたくさん地名があり、驚きでした。周りにある地名を大事にしていきたい。」「調査報告の冊子を見せていただき、感動しました。多くの地域の方々にまとめ、組織的な調査に取り組まれた事は後世の宝と感じます。」「地名の話にワクワクして聞き入り、歴史ロマンを感じる事が出来ました。」といった感想がありました。